



# 復活祭に向かって

アルベルト神父

灰の水曜日（今年は2月17日）をもって四旬節が始まりました。

四旬節とは復活祭の準備をする40日間です（日曜日は数えない）。これは特に神の救いを考える時期で、信者は信仰と愛と希望を深めて、祈り、節制、断食を通して神がもたらす救いを受け入れるために心を開きます。

毎日の祈り、節制、愛の業によってイエス・キリストの苦しみを感じて、イエスと心をつなげて、その復活の喜びに満たされて、生活が新しくされます。

この時期に、教会は、私たちの心が本当にどこに向かっているのかを問いかけて回心と呼びかけています。回心のしるしと心の転換の手段として教会は断食と祈りと愛の業を勧めています。

伝統的に断食には「大斎」（だいさい）と「小斎」（しょうさい）の2種類があります。特に灰の水曜日と聖金曜日に「大斎」と言って、断食が義務づけられています（子供、年寄りや病人を除いて）。つまり、その日に食事を半分以下にします。小斎

を守る日は毎週金曜日です。

復活祭の1週間前の日曜日（受難の主日）で聖週間が始ま



ります。キリストが最後に弟子たちとともにエルサレムに上ったことを記念します。

この週間の頂点は聖なる過越の3日間です。この3日間は聖木曜日の夜（主の晩餐）のミサから始まり、聖金曜日（主の受難と死）を経て「復活徹夜祭」で終わります。

復活祭の日付についてはさまざまな議論がありましたが、325年のニケア公会議以降、復活祭は「春分の日後の最初の満月の次の日曜日」とすることになりました。

そのため復活祭の日付は毎年変わります。今年の復活祭は4月4日になります。

聖週間がイエスの受難と死と復活の神秘に私たちを与らせることを目標としているので、聖週間、特に聖なる過越の3日間を祝う準備として、聖アウグスチヌスの次のような勧めの言葉に耳を傾けたいと思います。

「では、主が十字架につけられ、葬られ、復活した聖なる3日間について、注意深く考察してみなさい。これらの3つの神秘から、わたしたちはこの世において、十字架のしるしによって示されたことを実現する。だが、信仰と希望を通して、わたしたちは葬りと復活のしるしによって示されたことを実現する。」

# ヨセフ会の設立について

運営委員長

職町教会の成人男性組織として壮年会がありますが、女性組織であるマリア会に比べ活動が低調で、残念ながらここ2～3年は壮年会の集まりも開けない状態が続いています。第2青年会と称するご高齢の方々の活躍はありますが、若い世代の男性の働きを活性化することがこれからの教会を担っていくためには重要です。

昨年末に有志の方に集まっていたいで養成合宿を行い、活性化する術はないかと知恵を出し合いました。そして、青年まで含めた若い世代にも活動に参加してもらいやすくするため、一歳とらなければ入りにくい壮年会という呼称はやめてヨセフ会に発展的に改めたらどうかということになり、その足掛かりとして成年男子新年会を企画し開催しました。この新年会の席で、ヨセフ会の提案をしたところ、女性まで含めたほとんどの方から賛同していただきました。

正式には、壮年会総会を開き、会員の皆様の承認をいただいて発足ということになります。まだ日程は決まっていますが、4月くらいに開きたいと思います。

ぜひ、日頃教会活動にあまりかかわっておられない若い方にも参加していただき、将来の教会を支えていくことのできる組織としてしっかり働けるようになればと思います。

皆さまの参加をお待ちしています。



新年会の様子



## 「孤独を生きぬく キリスト教のメッセージ」 (イシドロ・リバス著)

題名に惹かれ、表紙の絵に誘われて手に取った本です。幼児洗礼の私の中の罪の意識、私の習慣、私の考え方、私の選択…。さまざまな「私の…」を手放せそうな気持ちになりました。本当の自分を選び直すというページには、『このような素晴らしい自分の知り方を「出会い」や「信仰」とも言います』とありました。本当の孤独を味わえば、本当の自分を選び直すチャンスになるのかと思えて、この孤独の中を歩みだそうと感じました。私の大切な出会いになりました。孤独な人も、そうでない人もぜひ一読を。

(クララ)

マリアホール内に本の貸出しができる「マリア文庫」が設置されました。現在約500冊の本が備えられています。ぜひご利用ください。  
貸出日：火曜、木曜、日曜日の午前中  
本の貸出期間：2週間  
貸出しノートに記入の上、ご利用ください。

## 私たちの教会を支える力を募集しています。

教会のさまざまな活動は、私たち共同体の方々のボランティアに支えられています。

そのため、一人でも多くの方に参加していただき、一人ひとりの負担を軽減すると同時に、「平和の道具」としての活動を発展させることが望まれます。

「平和の鐘」でも、先月号から共同体の組織について紹介するコーナーを設けました。それぞれの係の仕事を知っていただき、自分のできる範囲でお手伝いいただける方がいらっしゃれば、ご参加くださることを願っています。

ぜひ、皆様のご協力をお願いします。

### 編集後記 「情報公開」



教会での「情報公開」は、不正防止のためよりも、「福音宣教を広く皆で共有しあう」ための意向が強いと感じる。私達の編集作業も共有に役立っている? (の)

## 幟町教会の各係・委員会の紹介

### 第2回 典礼部典礼係

典礼係の仕事は、主日や祝日、行事のミサの先唱です。ミサを円滑にすすめ、参列された皆さんに気持ちよくキリストとの交わりの時間を過ごしていただけるよう心がけています。その準備のため、月に一度ミサ後に典礼部会へ参加し、ミサの進行や準備の打合せ、歌の連絡などを行っています。

大勢の前で緊張することもあります。先唱を通じて学べることも多くあり、ぜひ多くの方に体験していただきたいと思います。どなたでもそれぞれの時間を少し捧げてくださる方のご参加をお待ちします。



## 広島地区信者養成コース「祈りの体験」が開講されます。

4月から観音町教会を会場にして「祈りの体験」がスタートします。

西日本霊性センターには既に同様のコースがありますが、広島地区としては初めての試みです。これに先駆けて先日幟町教会でもマリア会主催で「祈りの会」が開かれ、22人の参加がありました。呼吸や体の感覚を通して、自然に祈りに導かれます。

5年前のことです。私は幸いにも聖堂掲示板でこの講座案内を見つけました。長束“こもれび”に集い、ラフォント神父様のご指導の下で黙想を重ね、一人ひとりの変化を目の当たりにしました。何人かの受洗者も誕生しました。私自身はその間に父親を亡くしましたが、物言えぬ父と心が通い合い、穏やかに送ることができたのは、ここでの体験が大きかったと思います。

“その人のうちから生きた水が川となって流れ出るようになる(ヨハネ7章)”

「祈りの体験」でさらに深く味わいたいと望んでいます。

詳しい内容や日程については、聖堂玄関掲示板をご覧ください。申し込み期限が3月21日と迫っています。教会受付でも申し込み可能です。一人でも多くの方のご参加を願っています。

(北ブロック若草地区 KK)